

#1 いきセンから半径500m

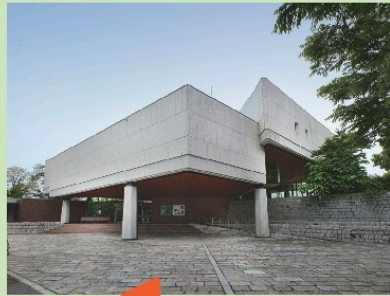
いきセンをご利用の行き道・帰り道に、
ちょっと寄り道して歴史ある文化に触れてみませんか？

岡崎つる家



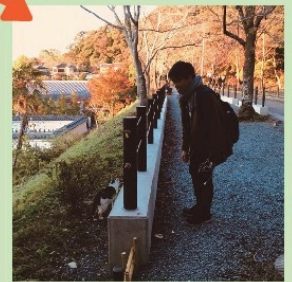
割烹着の人たちが出入りするこの料亭は何？—1928年、御所で昭和天皇の即位式典が執り行われるときに、入洛する貴族院・衆議院議員に対して宿泊や食事を提供するために開かれたのが、料亭「岡崎つる家」です。場所は寺社仏閣が息づく岡崎、建物は伝統的な数寄屋建築に東山を借景とした庭園、そうした美観のなかで振る舞われる美食。受け継がれるおもてなしの精神が堪能できる、まさに「和の迎賓館」です。皇族や国内外の賓客だけでなく、一般の方々が法事・挙式といった催事の場としても利用しています。

泉屋博古館(せんおくはくこかん)



泉屋博古館は、かの住友財閥を築き上げた住友家が蒐集した美術品を保存・展示する美術館です。こちらで収蔵されているのは、中国青銅器・鏡鑑や中国・日本の書画、洋画、近代陶磁器、茶道具、文房具、能面、能装束など多岐に渡ります。それらの多くを蒐集した第15代当主・住友春翠は、和洋中間わず様々な美術品・芸能・生活スタイルを嗜んでいたそうで、そこに彼の文人としての顔を見ることができます。

哲学の道



もとは琵琶湖疏水が完成した際にその管理用道路としてできた道で、明治以降、京都大学の西田幾多郎など多くの文人たちが散歩道として使うようになったため、このように呼ばれるようになったとか。春には桜、秋には紅葉が一面を彩ってくれます。私は去年の紅葉の時期に初めて行ったのですが、人に慣れた猫がたくさん歩いていて、少し驚きました。どうやら廃業になった喫茶店に住み着くようになったらしく、最近では有名なようです。かつて哲学者たちが思索に耽った道ではありますが、美しい桜や紅葉、のんびりと生活している猫たちがすべてを忘れさせてくれる、癒しの場所でもあると思います。



野村美術館



野村美術館の位置する南禅寺界隈は、山縣有朋や西園寺公望など多くの政財界人が別邸を営んだ閑静な別荘地として有名です。野村財閥を築き、野村證券や旧大和銀行などを創業した野村徳七もその一人で、野村美術館は彼のコレクションをもとに1984年に設立され、茶道具・能面・能装束、徳七の遺作を含め数多くが所蔵されています。精力的な実業家としてだけでなく、茶の湯や能楽に傾倒し、文化人としても名を馳せました。

若王寺共同墓地 同志社墓地

施設周辺は南禅寺や禅林寺など仏教系の寺院が立ち並ぶ地域ですが、一方でこちらには同志社大学の創立者・新島襄や彼の妻新島八重、山本覚馬、徳富蘇峰などキリスト教関係の人物が眠っています。

左京東部いきいき市民活動センターでは、センターが企画する催しや、職員が関わるイベントもいくつかあります。直近の催しのレポートや、施設で定期開催されている企画の紹介をしていきたいと思ひます。センターの活動に触れていただひきかけになれば幸いです。

#2 レポート 「復活！錦林盆踊り大会2018」



非常勤職員の長谷川と申します。今回のお祭りでは看板の制作を担当させていただきました。

看板という宣伝メディアは他にはない魅力を持っていると思ひます。一つには、一度置けば、置いた地点を通る不特定多数の人の目に入りうるといふ点です。チラシのように挟み込んだり、大量につくって配布したりすることは出来ませんが、通りかかるだけで目に入り、また通りかかるたびに何度でも目に入るのが、看板というメディアの特徴です。また、お祭りの会場に設置されれば、それ自体が会場の雰囲気や構成する装飾の一部となります。さらには看板が出た瞬間から、それがお祭りの始まりを感じさせるものにもなるかも知れません。そういったものになれば作り手としても喜ばしい限りです。

この看板はチラシのデザインに合わせて大きな提灯を真ん中に据えて、周りは盆踊りの躍動感をイメージして線を一本一本引きました。来年以降もこの看板は使われる予定なので、またこの看板を見て、「今年も盆踊りの時期が来たな」とお祭りに向けた高揚を感じていただければ嬉しいです。（長谷川）

今回初めて錦林盆踊りに参加してみ、地域住民の方々はもちろんのこと、思っていた以上に周辺大学や中学・高校の学生さん、他の地域の盆踊り愛好家の方々の参加が多くてびっくりしました。最初の1時間くらいは盆踊りの輪に入るのには地域住民の方々や愛好家の方の中でも慣れた方々数人程度だったのが、時間を追うにつれて大きな輪になって行く様は圧巻でした。最初は恐る恐る交じって行った人も見様見真似で踊りはじめていたのが、経験年輪入り交じり教えてもらってコツを掴んで活き活きと踊れるようになっていくのを見て、簡単な基本さえ押さえれば、あとはそれぞれが手前勝手に踊れる“盆踊り”という自由な場だからこそ、地域の方々や外部の方々との自然な交流が出来ているのだなあとと思ひました。来年以降もより多く色々なジャンルの方々の交流の場に来れるよう尽力したいと思ひます。（廣瀬）



#3 インタビュー こども食堂

地域のNPO団体と自治会が協働し、左京東部いきいき市民活動センター附設の高齢者ふれあいサロンを利用して、こども食堂を実施されています。その名も“こども食堂「夢」”。主催者の方にインタビューを行いました。（沢）

— こども食堂を始めたきっかけは何ですか？

去年の6月ころ、京都府から声かけがあったのがきっかけ。うちの地域はお年寄りが多いので本当なら老人食堂。この地域には子供のたまり場が少ないのもあってやろうと決めました。初めはお年寄りが多かったけれど、子供が増えてくると、うるさくなって少なくなってきてる。最近では子供だけでもきてくれて、「おばちゃん！」みたいな感じで常連が増えてきた。その子が友達を連れてきたりもして、60人近く来るときもある。



— やってみて、変化したことや良かったことはありますか？

子供から元気ももらっている。今までになかった輪が広がっている。よその町内の子どもも来てくれてね。すぐ近くに保育園はあるけれど、そこの子供と地域との交流はほとんどなかった。そこの子供も親と一緒に来てくれて、ご飯と一緒に食べて、近くの銭湯でお風呂も入って帰れる。そしたら家帰って少し楽できる。週に1度くらいそんな日があっていいと思ひます。

— これからの目標はありますか？

一番は子どもがケガせんこと。あとは町内の人や、うるさいと言わず来てくれること。年取るとわかるけど、自分の孫がやかましくても何とも思わないが、よその子供だとやかましく感じてしまう。だけどもたまには顔を出して欲しい。いい交流になるはずだから、そうならいいなと思ひます。でも色々含めても満点やと思ひます。これからも、できるだけ続けていきたいと思ひます。



#4 コラム

センター長 杉山 準

先日、小学生に向けて演劇の手法を使ったワークショップを行いました。演劇といってもセリフを言ったり、何かの役を演じたりするものではなく、人に何かを伝えたり、人から何かを感じたり、というやり取りを「遊び」を通じて行うものです。そこで大切にされているのは、子供が自由にのびのびとできること。できる限り逸脱も受け入れることです。表現に正解はないのですから、出てきたものを素直に受け入れ楽しむ。そうすることで子どもたちはどんどん自由になり、心を開き、そしてうまく伝えあうことが可能になっていきます。そして「楽しい」と感じるのです。

色々なメディアを通じて社会の「非寛容性」が進んでいると指摘されている時代です。イラツイテいる人が増えているのかもしれない。でも不満たらたら社会より、「楽しい」社会のほうがいいですね。ワークショップを観ていて感じるのは、「自分が表したいこと」が受け入れられることで、自分の存在が実感でき、喜びにつながるということです。その前提は全員に暗黙のうちに共有される「他の人を受け入れてみる」という態度です。そこに「楽しさ」を生み出すコツがあるように感じます。きっと「楽しさ」は誰かが一方的に与えてくれるものではないのです。

記事#1 出典情報：野村美術館 <http://nomura-museum.or.jp/publics/index/2/>
泉屋博物館 <https://www.sen-oku.or.jp/whats/>

#5 編集後記

今回初めていきいき通信の編集をさせていただきました。「東部いききセンから徒歩圏内で訪れることの出来る場所」というテーマですが、私自身こちらに非常勤職員として勤め始めるまで、観光地として有名な南禅寺や哲学の道を訪れたばかりは、この錦林地区に足を踏み入れたことが殆どありませんでした。実際に施設周辺が一体どういう地域なのだろうと他の職員から聞いたり調べてみると、日本・京都の長い歴史を紡いできた様々な人々の営みと繋がっていて、今もなおそれが生きている空間なのだという発見が得られました。そして、その場所で日々市民の方々の文化活動・地域活動が盛んに行われているのは、そうした人々の営みがまた異なる形で受け継がれていくということなのかなと思ひます。（大西）



左京東部いきいき市民活動センター

〒606-8432 京都府京都市左京区鹿ヶ谷高岸町3-2
TEL: 075-761-1385 FAX: 075-752-3350
MAIL: info@se-ikiiki.com URL: http://gekken.net/SE_IKIKI/
開館時間: 10時～21時(日曜日は17時まで)
休館日: 火曜日・年末年始(12/29～1/4)

アクセス: 京都市営地下鉄 蹴上駅より徒歩15分 バス停「東天王町」より徒歩5分
※駐車場はございませんので、公共交通機関もしくは最寄りのコインパーキングをご利用ください。

発行: 左京東部いきいき市民活動センター 発行日: 平成30年12月1日 編集長: 大西哲太郎 レイアウト: 廣瀬信輔